



# 学校だより

令和5年度 7月号  
横浜市立庄戸小学校

## 笑顔がかがやく 子どもが主役の学校

～感動いっぱい 夢いっぱい 一人ひとりのよさや可能性を引き出す教育を推進します～  
庄戸小ホームページ <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/shodo>



### 自分の目標をもって

校長 山口 洋幸

本年度の水泳学習が始まりました。プールに入ること自体が何年かぶりの子どもも多くいます。そのため、例年以上に水慣れからスモールステップで細やかに計画を立てて指導を行っています。

さて、私には水泳というと子どもの頃の思い出がいくつかあります。まず、1年生の時、水慣れで水の中に潜れた子からプールサイドに上がれるというものがありました。当時の私はお風呂で洗髪するときのシャワーですら苦手でした。潜るなんてとんでもありません。気が付くと学年200人以上の友達がプールサイドに上がっているのに、私だけが一人プールの中に残っていて、みんなにはやし立てられて、しまいには泣き出してしまいました。

次に、見かねた母親が私をスイミングスクールに入れました。そこには、ヘルシンキオリンピックで活躍された橋爪選手がコーチになられて指導に来ていました。そんなこととは関係なく私はまたまた顔を水につけられず、レッスンのたびに泣いていました。ある日、担当のコーチから私の母親が、「お宅のお子さんは無理だと思います。」という衝撃的な助言をされ、私はスクールを退会することになりました。

そんな私ですが、4年生の時に転換期が訪れました。私の様子を知った叔父が、毎週土曜日に港南台の温水プールで泳ぎを教えてくれることになったのです。叔父は学生時代に水泳の選手でした。私はここで泳げるようにならないと、ずっと泳げないまま大人になってしまうなと思い、欠かさず通いました。そして、12月のある日、閉館間近の人の減ったプールでその瞬間はやってきました。「行ける気がする。今がチャンスだ。」と、一かき一かき慌てずに丁寧にストロークをして、25mを泳ぎきることができたのです。その時の達成感は今でも忘れられません。

その後、自分から母親にスイミングスクールに入り直したいと言って再び通い始め、中学に入ってからも続けたことで体力もつき、記録会にも挑戦しました。自分から目標をもって粘り強く取り組むことの楽しさを知ることができました。本校の子どもたちにも、ぜひ自分なりの目標をもって様々なことに挑戦して欲しいと思います。

保護者の皆様には、朝の健康観察や水泳カードへのご記入、持ち物の準備等でご協力をいただきますが、どうぞよろしくお願いいたします。